

2021/4/9

中央環境審議会地球環境部会中長期の気候変動対策検討小委員会・産業構造審議会  
産業技術環境分科会地球環境小委員会地球温暖化対策検討ワーキンググループ合同会合  
第4回会合 杉山大志委員提出意見へのコメント

国立環境研究所 江守正多

第4回会合での杉山委員の提出意見に、自分の専門性に近い部分があったので、さしあたり以下4点コメントさせていただきます。

1. 排出量シナリオが高すぎる。4°C上昇シナリオは現実的でない。  
⇒RCP8.5を”business as usual”として参照するのはミスリーディングであるという議論があり (<https://www.nature.com/articles/d41586-020-00177-3>)、これには賛成します。しかし、もっと低い排出量でも、もしも気候感度と炭素循環フィードバックが大きければ4°C上昇は起きえますので、最悪に近いシナリオとして4°Cを参照することには意味があると考えます。
2. もしもモデルで「過去に台風・大雨等の激甚化が起きていないのにも関わらず今後は2°C上昇シナリオで激甚化が起きる」とすれば、そのようなことがなぜ起きるのか。  
⇒一般論になりますが、それはシグナル-ノイズ比の問題で、ふつうに起きうることではないでしょうか。つまり、過去には自然変動のノイズの方が気候変化の影響（シグナル）より大きいので傾向がわからないが、将来はシグナルが大きくなって傾向が顕在化する、ということが考えられ、この場合は何ら不思議ではありません。ただし、モデルでそうなっているかはわからないので、それを調べることに賛成します。
3. モデルでは対流圏の気温上昇は過大評価になっていると推察する。  
⇒以前に、モデルで対流圏の気温上昇が過大評価と主張する論文を杉山委員が支持しておられたので、私はその論文の問題点を指摘し、過大評価とはいえないと主張する論文を教えて差し上げました。

<https://ieei.or.jp/2020/03/opinion200310/>

4. 災害により関係が深いのは大雨の年間日数ではなく日降水量の最大値である。観測では日降水量の年最大値が過去増加していないと理解しているが、なぜこのことに触れないのか。

⇒第1回会合の杉山委員の資料において、「日降水量の年最大値が過去増加していない」という論文の図を引用しているが、同じ論文に時間降水量や10分間降水量は増加しているという図があるにもかかわらず、増加していない図のみを引用している」というチェリーピッキングの問題があることを私は指摘させて頂きました。

<https://www.env.go.jp/council/06earth/y0620-1b/ref03.pdf>

以上